

## 寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

(匿名希望を除く。50音順、2025年8月末現在)

この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

野崎 研二 様  
御坊ロータリークラブ 様  
一般社団法人生産技術振興協会 様

## 編集委員のページ



白野倫徳（しらのみちのり）  
大阪市立総合医療センター感染症内科 部長  
多くの輸入感染症症例に関わる  
大阪府感染症対策部会委員

### 大阪・関西万博と感染症対策

現在、大阪市では2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）が開催されており、連日にぎわいをみせています。万博のように、特定の場所に特定の目的を持ってある一定期間、人々が集積することを「マスギャザリング」と呼びますが、さまざまな感染症の発生リスクが取りざたされています。

国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所では、「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けての感染症リスク評価」を公表し、大阪健康安全基盤研究所等と連携してサーベイランスの強化に取り組んでいます。

人々が集中することによる呼吸器感染症の増加のほか、開催期間は夏季が中心となるため、食中毒や蚊媒介感染症の発生リスク、猛暑・豪雨・台風など環境の変化による健康リスクも指摘されています。来場者の多くが万博のみならず、公共交通機関を利用して様々な地域を訪れるため、感染が拡大することも予想されます。

具体的には、すでに発生が報告されている麻疹や侵襲性髄膜炎菌感染症、腸管出血性大腸菌感染症、百日咳、新型コロナウイルス感染症などのほか、現時点では国内では報告されていませんが、中東呼吸器症候群（MERS）コロナウイルスの持ち込みや、デング熱などの蚊媒介感染症の国内感染例の発生も懸念されています。

私たち医療機関には、丁寧に問診をすること、検査のハードルを下げ、輸入感染症を適切に診断することが求められます。